

<福重商工振興会 創立 30 周年記念誌の挨拶、祝辞関係の特集版>

(注：この特集版は、**創立 30 周年記念誌**より挨拶、祝辞関係を中心にホームページ用として作成しています。それ以外の詳細な内容、写真その他は、**記念誌**をご覧ください。なお、[創立 30 周年関係記念写真は、もくじページから、ご覧頂けます](#))



ご挨拶

第 6 代福重商工振興会会長 田中博

入会して 20 年になります。'07 年 5 月、福重商工振興会会長職を仰せつかり各種団体の会合に積極的に参加。コミュニケーションにはビールが一番。痛風にもビールが一番。痛風は会長の職業病の一つで、当然、私も痛風になりました。各種団体交流会のお陰で、故郷ふくしげを、熱く想う有志たちによって支えられていることを理解しました。私が体験した 2 年間の足跡を振り返ってみます。

'07 年 7 月に「ふれあいふくしげ」命名式並びに赤い門灯の点灯式を開催。同 8 月、第 25 回「ふくしげ夏祭り」記念大会がありました。福重地区神社総代会のご提供により、「阿蘇猿回し」初披露があり、近年になく盛大に盛り上がりました。

'08 年 2 月、大村市提供の大村桜の記念植樹は厳かに執り行われ、振興会並びに会員が益々繁栄しますように祈願しました。

3 月、福重商工振興会研修旅行があり、仲間との語らいは最高の時でした。

4 月、福重商工振興会ホームページ開設。上野盛夫氏に協力いただきました。

5 月、第 30 回福重商工振興会総会及び記念式典の開催。

お陰様で私の会長職の任務も全うできそうです。今は亡き大戸輝昭君の墓前に、報告にゆきたいと思っています。彼は商工振興会の礎をつくった人です。

さて、世界的な経済不況の中、われわれ福重商工振興会会員も力を合わせて生き残らねばなりません。ふるさと、福重を、日本一元気な町にするために、立ち上がりましょう。さあ、若い人たちの出番です。富永政巳君、宮暗和之君、清水正人君…会員諸君に託します。未来に夢を持ち、ふるさと福重を盛り上げましょう！

福重が盛り上がれば、大村市、長崎県、そして日本も必ず変わり、活性化してゆくことでしょう！われわれ福重の先人たちの叡智をいただきながら……

前進してゆきましょう！ 創立 50 周年に向かって

一日一日(day by day)一步一步(step by step)

一つずつ(one by one)…継続のあとに、文化が残り、歴史が残る。



祝辞

長崎県知事 金子原二郎

福重商工振興会が創立 30 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

福重商工振興会の皆様におかれましては、日頃から地域商工業の振興はもとより、本県経済の活性化にご尽力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

福重商工振興会は、昭和 53 年 4 月、会員の資質の向上と豊かな地域経済社会の発展を目的に福重商店会として創立され、ここにめでたく 30 周年を迎えられました。

設立以来、地域経済の活性化に邁進されるとともに、「ふくしげ夏祭り」の開催や「郡三踊り」などの伝統芸能の継承にも積極的に取り組み、地域の特性を活かした豊かで住みよい地域づくりにご尽力されておりますことに、深く敬意を表する次第であります。

さて、昨年秋以降、世界的な金融危機の拡大により、我が国の景気は急速に悪化し、かつて経験したことのない経済環境を迎えており、県内企業の経営や県民の生活は、大変厳しい状態が続いております。

このような中、県におきましては、経済雇用対策を最優先課題に掲げ、雇用の確保・創出と県内経済の活性化を図るとともに、県民の暮らしの安心を確保するための対策に全力で取り組んでいるところで

す。また、昨年着工した九州新幹線西九州ルートにつきましては、1 日も早い完成を目指しながら、新幹線開業による効果が最大限に発揮されるよう、市や県民の皆様と一体となって、新幹線を活かした魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。

皆様におかれましては、引き続き、活力と創意にあふれる事業に積極的にチャレンジしていただき、魅力ある地域づくりはもとより本県経済の発展のためご尽力賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、福重商工振興会の今後益々のご発展と会員皆様のご健勝、ご活躍を祈念申し上げまして、お祝いのことばといたします。

.....

祝辞

大村市長 松本崇



福重商工振興会創立 30 周年を心からお慶び申し上げますとともに、記念誌の発刊をお祝い申し上げます。

日頃から、田中会長をはじめ福重商工振興会の皆様には、本市の商工業の振興はもとより地域振興に積極的なご尽力を賜り、深く感謝を申し上げます。

福重地区は近年、大村市の中でも活力がある地域として市民の注目を浴びております。

また、福重商工振興会におかれましては、商工業、農業、地域住民の一体的発展に寄与され、毎年 8 月に「ふくしげ夏祭り」を開催され、地域住民の交流の場として皆さんに愛され親しまれております。

農業では「フルーツの里ふくしげ」ということで、地元の若い方が中心となり地域の特性を活かした観光農業に熱心に取り組まれ、その成果は広く認められております。

「おおむら夢ファーム・シュシュ」は地元産の新鮮食材の販売、レストラン、手作り体験、収穫体験など家族そろって楽しめるとあって、市内はもとより、県内外からの集客も多く、週末はいつも数多くの人で賑わっています。

産地偽装や輸入野菜の残留農薬問題など、食の安全・安心に関する事件がマスコミを賑わせる昨今、食品に対する消費者の目は大変厳しくなっています。

福重地区はそんな消費者のニーズを捉え、今後益々発展していくものと期待しております。市といたしましても、大村市の経済活性化に積極的に取り組み、皆様の期待にこたえるよう努力してまいりますので、なお一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、この節目の 30 周年を契機に福重商工振興会が、活力ある地域社会づくりになお一層のご貢献をされることを期待いたしますとともに、今後益々のご繁栄と会員皆様のご健勝ご活躍を祈念いたしまして、お祝いのごことばとさせていただきます。



祝辞

大村商工会議所会頭職務執行者 副会頭 角谷省一

福重商工振興会の創立 30 周年を心からお祝い申し上げます。

貴振興会は、昭和 53 年の創立以来、地域商工業の振興はもとより同地域の発展に尽力されて来られました。これも偏に歴代の会長をはじめ役員、会員の皆様方のご努力の賜であり、心より敬意を表します。

貴振興会は、市内福重地区の商工業者 8 名から活動を始められ、地域住民へのサービスをモットーとして、地域住民による日々の買い物の場とともに、様々な生活支援を業として、発展して来られました。商店会活動の中で、昭和 59 年からは「ふくしげ夏祭り」を企画実行され、今では福重地区を代表するイベントに育て上げられました。会員数も現在 37 名で、今や地域振興を担う重要な組織として、その地位を不動のものとされましたことは、商工会議所としても非常に心強い限りであります。

ご存知のように、近年は規制緩和による大型店やロードサイド店の相次ぐ出店により都市環境も大きく様変わりをしております。また 10 年後には九州新幹線西九州ルートが福重地区を横断する形で開通し、いよいよ「新幹線」が大村に姿を現すこととなります。まさに新しい時代に突入してゆく兆しが感じられます。ただ目下の深刻な不況で今後の趨勢が予想できない状況ではありますが、昔から福重地区は、先取り気質にとんだ人材を多数輩出されており、その精神を脈々と引き継がれておられますことから、貴振興会ならではの新たな試みと実践に期待しております。

今回創立 30 周年事業として地区案内看板の改修や桜の植樹を始め、貴振興会のホームページを開設されると聞いておりますが、地域の特性やフレッシュな情報を発信することにより、「フルーツの里」と呼ばれるような、福重の地名をさらに高めるとともに、個々の会員の皆様はもとより、地域の繁栄と発展に繋がってゆくものと考えます。

終わりに、福重商工振興会の今後益々のご発展と会員各位のご繁栄を祈念いたしまして、お祝いの言葉と致します。

30 周年によせて

初代会長 市原亀継

福重商工振興会の皆様、

商工振興会 30 周年おめでとう御座居ます。

皆様方の益々の前進と業績ののびを心より感謝しています。

会員皆様方の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

第2代会長 松尾龍之助

商工振興会 30 周年おめでとう御座居ます。

この度、私のコメントをお願いしますとの事、私の一番の思い出はなんと言っても夏祭りにつきます。このいきさつは青年団より、祭りをしても一番のなやみは金がない、お客が少ない、この二点につくるとの事。私は要望に応え、会の皆様に相談して共催することにしました。私達の目的は、やはり青年団の意をくみ、祭りに全力を尽し取組む事にしました。その結果、皆様ご承知の通り現在に至っております。

最後に皆様の御多幸と会の発展を祈念します。

第3代会長 森克彦

福重商工振興会 30 周年おめでとう御座います。

会員の一人として感慨深いものがあります。

30 年前、創立された当時の事を振り返ってみたいと思います。時代の流れと共に、福重にも小学校付近に宅地造成がなされ、柳町団地が誕生しました。その後、福重市営アパート、雇用促進住宅サンコーポラス…と少しずつ町の様子が変わりつつありました。

遠い昔より福重地区は農業を中心として栄えてきました。その中には、私達の模範とする所の農業団体出荷組合等々が既に設立されておりました。

生存競争の波が激しくなりつつある中、商工業者同士にも、親睦を図り、互いを高揚しあう気運が高まる中、商工振興会の前身である福重商店会が創立されました。

その後、賛同会員を募りながら、商店会、商工会、商工振興会へと変遷を経て参りました。

今では、当初の目的より一步前進し、地域への貢献活動があります。

福重地区各種団体へ名を連ね活動する一つとして、毎年開催される夏の大会「ふくしげ夏まつり」。「子供たちに夏の思い出を提供し、ふるさとを思う心を育み地元住民のコミュニケーションの場」を趣旨、目的として昨年(2008 年)8 月に 25 回を数えました。地域内外より多大なる御協力いただいておりますこと改めてお礼申し上げます。

終わりに"10 杯のお茶より 1 盃の酒"を合言葉に、なによりも会員同士の心を一つにし、共に高め合い、多くの方々に愛される事業者又会員として頑張っていきたいと思います。

商工業者会員の益々の繁栄と地域活性化と後継者の為に!!

第4代会長 辻勝徳

福重商工振興会の創立 30 周年おめでとうございます。

今、ここに振り返ってみると、当初、福重商店会から始まり、次に商工会となり、新たに商工事業者への加入を広げ、その後、現在の商工振興会へと改め、多くの事業者の加入拡大をはかり、今では地区内でのしっかりとした団体として地域住民の皆様に認めて頂いているところであります。

これも先輩会長を初め、会員各位の融和を保ちながら、活動できたお蔭であると思います。

又、事業に於いては、青年団が行っていたゆかた祭りを引き継ぎ、ふくしげ夏祭りとしてこの会が主催して 25 年が経過いたしました。継続は力なりと申しますが、まさにその通りであると思います。

今後とも、会員各位の融和を図りながら、会員の自己研鑽に努め、福重商工振興会、会員各位の発展を大いに期待を致します。

又、地域の活性化に向け、頑張りましょう。

第5代会長 塚原正勝

「継続は力なり」

福重商工振興会の30周年、おめでとうございます。幾多の試練の中、今日まで頑張ってきて来られた、歴代の会長及び役員、そして物故の会員様、地元の諸団体の皆様の御協力の賜物だと思います。商いをする、そして余力を地元振興の為に、奉仕された会員の皆様の努力には、頭が下がります。特に夏祭りの行事には、それぞれの役目を、しっかりと責任態勢でやってこられた商売人魂、そして根性、すごい会員の集まりだと感心させられる事も数多くありました。人生の勉強にも成りました。又、祭りの運営には、かかせない交通警備や、その他、目には見えない色々な応援等もあって、夏祭りも開催出来ました。感謝するものです。一つの事を成し遂げ、汗を流した分、反省会の親睦は忘れられぬものでした。夏祭りに参加された、地元の子供達の笑顔は、我々会員の活力と成り、今後も継続は力なりを念頭に頑張るしか無いと思います。最後になりましたが、今日迄多額の広告協賛を頂きました市内の企業の方々、夏祭りの売店の売り子として協力頂いた金融機関の社員の方、又会員の社員の皆様にも厚く御礼を申し上げます。全て感謝の内に。

.....

編集後記

福重商工振興会創立30周年記念誌を作製するにあたり、私達は30年間の歴史を改めて振り返る事ができました。

その中で、当会がここまで成れましたのも、長崎県、大村市、地元の福重地区の皆様をはじめ関係各位のご協力と、歴代会長、役員の皆様をはじめ先輩会員の皆様のご尽力のお陰である事を改めて認識いたしました。

今、時代は100年に一度と言われる先の見えない経済不況の中にあります。そのため、私達のような中小企業の商工業の団体の活動は、困難を極めております。しかし、時代は好転し、いつか春が必ず来ます。

春になると草木が、一斉に花を咲かせますが、それは、冬の寒さの中でも、たゆまず花をさかせる準備をしているからです。

私達も来るべき春に、当会並びに、会員事業者自身の花を咲かせる為に、この時代に、寒さに耐え準備をしっかりしなければなりません。

継続は力なりといいます。私達は福重商工振興会のバトンを次の時代にもしっかりと繋いでいかねばなりません。

10年後、20年後に「あんな時代もあったな」と懐かしく思い出すことが出来るように、会員皆で頑張りましょう。

最後になりましたが、30周年記念事業にご協力頂きました関係各位の皆様、並びに会員の皆様に深く感謝を申し上げます。

創立30周年記念誌部会長 富永政巳